



廃棄物学会ニュース

The Japan Society of Waste Management Experts

No.94
廃棄物学会

新委員長就任挨拶 (1)



企画運営委員長
井手 義弘
(川崎重工業(株))

最近の廃棄物処理業界は、市場激減、予算価格低下、他の業界の談合問題による指名停止、コンプライアンス重視での事業撤退など厳しい状況にあります。廃棄物学会としても、組織のスリム化、財政安定化、法人化、編集事務&事務局の統合、受託事業の増加などの課題があり、学会のためにも重要な時期にかかっていると云えます。この時期に企画運営委員長を拝命しましたが、これらの課題解決には、役員はもとより会員の皆様の絶大なる支援と協力が必要であります。国際的な観点からも、環境整備の活動が今後も継続され、技術移転は進行すると考えられます。そのため、本学会としては、技術開発と評価、基礎学力や知識の増強、人材育成、開発途上国への貢献、学術の国際交流、などの研鑽を積み、これらの進展に努力していかなければなりません。この使命の達成の下働きである企画運営委員会の仕事を、委員の皆様と一体で果たし、会員の皆様の御協力を得て全うしていく所存でありますので、宜しくお願いします。



編集委員長
古市 徹
(北海道大学)

第 9 期は、学会の全委員会の数が 6 つから 4 つへ再編され、改革に向けて初めての船出をします。再編の理由は、多くの学会に共通である、取り巻く時代背景の変化と、それに伴う財政面での逼迫です。廃棄物学会も、スリム化と活性化を図る大きな転機にきています。第 8 期までの編集委員会委員各位のご苦勞により、委員会業務のシステム化が図られて参りました。しかし、編集委員会に対しても、他委員会と同様に、運営に当たっての効率化が求められております。

そこで、第 9 期では、従来の編集幹事と編集委員の機能を併せ持つ「編集委員」と、論文誌の担当編集委員を専ら受け持つ「論文誌編集委員」、のスリムな構成と致しました。また、編集委員会は、会員の皆様のニーズを最優先に反映し、内容を活性化することにより、手にとって読みたくなり、次号が楽しみになる学会誌の発行を目指していききたいと思います。

勿論、学会誌・論文誌は学会の顔ですので、長期的な展望と、一定の見識を持ちつつ、質の向上を図りたいと思います。変化しつつも継続性を大事にし、また柔軟に取り組みつつも確実に発刊できる実行性をもつ、そんな編集体制で臨みたいと存じます。どうか会員の皆様、益々のご協力とご支援をお願い申し上げます。

第 9 期 企画運営委員会

委員長	井手義弘 (川崎重工業(株))
副委員長	貴田晶子 ((独)国立環境研究所)
〃	細田衛士 (慶応義塾大学)
委員	青山俊介 ((株)エックス都市研究所)
〃	石渡和夫 (川崎市)
〃	押方利郎 (大成建設(株))
〃	片柳健一 ((株)環境管理センター)
〃	金子栄廣 (山梨大学)
〃	河端博明 ((株)神鋼環境ソリューション)
〃	瀬瀬卓也 (日本技術開発(株))
〃	西垣正秀 ((株)タクマ)
〃	西川光善 ((株)環境技研コンサルタント)
〃	福井 博 (神奈川県環境科学センター)
〃	松村治夫 ((財)日本産業廃棄物処理振興センター)
〃	山本耕平 ((株)ダイナックス都市研究所)

第 9 期 編集委員会

委員長	古市 徹 (北海道大学)
副委員長	和田安彦 (関西大学)
編集委員幹事	高岡昌輝 (京都大学) 谷川 昇 (北海道大学)
編集委員	石井一英 (北海道大学) 田崎智宏 ((独)国立環境研究所)
	川口光雄 ((株)奥村組) 宮脇健太郎 (明星大学)
	小泉 明 (首都大学東京) 山川 肇 (京都府立大学)
	河端博明 ((株)神鋼環境ソリューション)
	小野雄策 (埼玉県環境科学国際センター)
	竹内 敏 ((財)日本産業廃棄物処理振興センター)
	羽賀育子 (EPR とデポジット制度の実現をめざす全国ネットワーク)
論文誌編集委員幹事	酒井伸一 (京都大学) 中村一夫 (京都市)
論文誌編集委員	伊藤秀章 (名古屋大学) 藤江幸一 (豊橋技術科学大学)
	植田和弘 (京都大学) 藤吉秀昭 ((財)日本環境衛生センター)
	大塚 直 (早稲田大学) 松藤敏彦 (北海道大学)
	金子栄廣 (山梨大学) 森口祐一 ((独)国立環境研究所)
	島岡隆行 (九州大学) 山本和夫 (東京大学)
	高見澤一裕 (岐阜大学) 吉岡敏明 (東北大学)
	杉山涼子 ((株)杉山・栗原環境事務所)

新委員長就任挨拶(2)



学術研究委員長
酒井 伸一
(京都大学)

第9期の学術研究委員会を担当させていただくにあたって、まずは従来の年会委員会と研究委員会が統合されたことで、本委員会委員の労をとっていただく方々に深くお礼を申し上げねばなりません。季節変動は大きいものの、年会運営や研究支援の業務自体が相当な量であるため、人員を約半分に抑えた統合組織で進めることは、自ずから個々の作業量の負担増となるからです。

第8期から力を入れつつある学会自身が「研究する」態勢をつくり、廃棄物学会としてその成果を社会的にアピールすること、学会間協調をはかることなどは、故田中信壽会長時代に議論を尽して取り組みつつある新機軸ですが、是非とも実現したいものです。加えて、微修正的改善を目指すべき点も見えつつあります。年会参加者減少に歯止めをかけること、とくに春の研究討論会をより早い時期から企画し、参加者増につながる工夫を講じねばなりません。また、学会としての学術的活動を重視しつつも、市民研究活動の方向性を、研究部会活動や学会誌市民編集号などの協調の中で、太いパイプとしていくことも重要な課題と認識しています。あらためて、よろしくお願いします。



国際委員長
松藤 康司
(福岡大学)

国際委員会、第8期の理事会において実施された組織改革の下で、開設以来の活動内容を継承しつつ、更にアジア太平洋に廃棄物専門家のネットワークを構築する新たな使命を持ち活動を開始しました。第9期は委員長、副委員長、幹事、副幹事他計15名の体制で以下の活動を行います。

- ①英文ニュースレターの編集・発行、海外配信及び普及
- ②日韓交流協定に基づく活動の企画・運営
- ③年会における国際セッション等の企画・運営
- ④来日海外専門家によるセミナーの開催
- ⑤委員会HPの企画・運営等
- ⑥国際会議・廃棄物戦略会議への対応・参加促進、及び海外調査団の派遣
- ⑦学会誌・HP等を通じた海外開催イベント情報・海外技術協力情報の提供
- ⑧海外から学会あての照会文書等への対応

特に当面の重点活動として、2006年11月に実施する日韓廃棄物学会協力協定の更新及び調印、そして第2回アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催があげられ、委員一丸となって取り組んでいます。

周知の様に、廃棄物問題は、物の流れだけをみてもアジアを中心として、国際的な視点で取り組む時代を迎えています。更にRoHSを初めとした欧米における動向、地球環境問題などを考えますと、国際委員会の使命は益々重要になる事が予想されます。

今後共、会員の皆様の暖かい御支援と御協力をお願い致します。

第9期 学術研究委員会

委員長	酒井伸一 (京都大学)
副委員長	崎田裕子 (NPO 法人持続可能な社会をつくる)
幹事	大迫政浩 ((独) 国立環境研究所)
〃	加茂 徹 ((独) 産業技術総合研究所)
〃	山口直久 ((株) エックス都市研究所)
委員	大木達也 ((独) 産業技術総合研究所)
〃	加藤みか ((社) 新潟県環境衛生中央研究所)
〃	近藤康之 (早稲田大学)
〃	肴倉宏史 ((独) 国立環境研究所)
〃	柴田健司 ((株) 大林組)
〃	東條安匡 (北海道大学)
〃	中井八千代 (EPR とデポジット制度の実現をめざす全国ネットワーク)
〃	羽染 久 ((財) 日本環境衛生センター)
〃	日浦朋子 ((社) 全国産業廃棄物連合会)
〃	古田秀雄 (日本技術開発(株))
〃	若松秀樹 (石川島播磨重工業(株))

第9期 国際委員会

委員長	松藤康司 (福岡大学)
副委員長	有田耕二 (JFE プラントサービス(株))
幹事	四阿秀雄 (東京都)
副幹事	渡辺泰介 ((独) 国際協力機構)
委員	五十嵐賢治 ((株) エヌ・ジェー・エス・コンサルタンツ)
〃	北脇秀敏 (東洋大学)
〃	齋藤正浩 (八千代エンジニアリング(株))
〃	斉藤元明 (横浜市)
〃	坂口喜市郎 ((株) エックス都市研究所)
〃	松本津奈子 ((株) 佐野環境都市計画事務所)
〃	志村 亨 (国際航業(株))
〃	杉山涼子 ((株) 杉山栗原環境事務所)
〃	鈴木明郎 (アジア太平洋廃棄物専門家会議)
〃	瀧口博明 (環境省)
〃	宮川 隆 ((財) 日本環境衛生センター)

～めぐる 世界のモノとごみ～

平成 18 年 6 月 10 日（土）、大阪市立大学文化交流センターホールにおいて、「～めぐる 世界のモノとごみ～」をテーマに市民と学生のためのセミナーが開催された。約 80 名が参加する中、各分野より 3 名の講師を招き、それぞれ興味深い講演が行われた。

まず、「めぐる 世界のモノとごみ」と題して、山川肇氏（京都府立大学）から、国内で使われなくなった“モノ”の輸出が環境問題を引き起こすのではないかという観点より、PET ボトル問題や自動車リサイクル問題などの現状報告および今後の対策についての講演があった。次に、「パラオの廃車適正処理—JARA の提案」と題して、竹内啓介氏（JARA・全日本自動車リサイクル連合）から、途上国において使用済の日本製中古車が大量に放置されている問題に対処するための、JARA のパラオでの取組みが紹介された。最後に、西岡良夫氏（ウータン・森と生活を考える会）から、「違法ラミン材停止行動と企業の変貌」と題して、ラミンの違法伐採の現状と国内企業への使用および販売停止への働きかけについて、苦労話を交えたトークが行われた。

環境問題は日本国内での出来事を中心に考えてしまう傾向にあるが、今回の講演を通じて幅広い視点を持つことの必要性、行動することの大切さを再認識することができた。

(関西支部 長澤松太郎 記)



▲セミナーの様子

「平成18年度九州支部総会、講演会」開催報告

平成 18 年 6 月 10 日（土）、平成 18 年度九州支部総会が福岡ガーデンパレス（福岡市）において開催された。総会では、いずれの議案についても満場一致で原案通り承認可決された。

平成 18 年度より発足した新体制では、九州支部長に平田登基男氏（鹿児島工業高等専門学校）が就任された。また、支部事務局は、福岡市保健環境研究所から九州大学大学院工学研究院環境制御工学研究室へと引き継がれた。

平成 17 年度は、全国的にみて廃棄物学会会員数が減少した。九州支部においても、約 1 割の会員減が報告された。今後、これまで以上に魅力ある支部活動を実施し、会員数の維持、新規会員の確保に向けた努力が必要であることが確認された。

総会後に開催された講演会には、白井義人氏（九州工業大学）をお招きし、「都市におけるバイオマス資源の循環利用について」についてお話をいただいた。都市で発生する食品ごみ、下水汚泥のようなバイオマス資源として捉え、循環利用する方法について大変興味深いお話をいただいた。

懇親会には約 30 名の参加があり、会員相互の近況報告や情報交換、学会活動に関する意見交換が活発になされた。

(九州支部 中山裕文 記)



▲総会の様子

「平成18年度中国・四国支部総会、講演会」開催報告

去る平成 18 年 6 月 23 日（金）、岡山国際交流センター（岡山市）において平成 18 年度中国・四国支部総会および講演会が開催された。

総会では、17 年度の事業報告、収支決算報告および監査報告が行われ、承認された。また、今年度の事業計画および予算計画が説明され、審議の結果、承認された。

続いて、約 30 名が参加する中、講演会が開催された。まず、「循環型社会形成に向けた総合戦略～規制・ビジネス・ライフスタイルのポートフォリオ～」と題して、谷貝雄三氏（環境省中国四国地方環境事務所）からお話があった。これまでの廃棄物・リサイクル政策を整理した上で、法規制、資源循環ビジネス、国際資源循環問題などの現状と課題及び今後の展望について体系的に解説していただいた。次に、「広島県における環境関連の産業育成事業と研究開発支援事業について」という演題で今岡務氏（広島工業大学）からお話があった。行政の主導的の事業や業界、大学等も巻き込んだ NPO 活動など、広島県における環境産業や関連研究開発を支援する先進的な取り組み事例が紹介された。講演会終了後は交流会も開催され、和やかな雰囲気の中、お

互いの親睦を深めるよい機会となった。

（中国・四国支部 樋口隆哉 記）



▲講演会の様子

「平成18年度東北支部総会」開催報告

平成 18 年度東北支部総会は平成 18 年 7 月 19 日（水）、仙台ガーデンパレスにおいて開催された。議事の内容は、(1)支部会則改訂について、(2)平成 18 年度役員人事、(3)平成 17 年度事業報告、(4)平成 17 年度会計報告、(5)平成 18 年度事業計画(案)、(6)平成 18 年度予算(案)、(7)その他、であった。支部規約に則り、総会の成立条件が満たされていることが確認されたあと、議事に入った。

議事では、支部会則が改訂され、支部活動の効率化のために、これまでの庶務担当幹事を廃して幹事長を置くこととなった。役員人事については、昨年度の役員が本年度も継続して務めることが確認された。平成 17 年度の事業内容や、決算は原案通り了承された。昨年度の大きな事業としては、第 16 回廃棄物学会研究発表会が仙台国際センターで開催されたことが報告された。

平成 18 年度の事業計画では、東北支部講演会が秋田において 10 月 23 日に開催予定であることが示された。平成 18 年度予算案議事では、助成金が昨年度の半分に減額されていることから、その経過説明があった。しかし、この件については釈然としないとの意見が多く出された。

その他として、会員数の少ない地方からは理事を出

しにくい状況にあるので、支部長が理事になる制度にしたらどうか、支部の意見を理事会や企画運営委員会に上げる手段が少ない、支部間の連絡を取る支部長会議を設けたら、といった意見があった。今後とも本部や支部間の連絡を密にし、学会全体の活力の向上を図れるような施策が必要と思われた。

（東北支部 中山正与 記）



▲総会の様子

第 17 回廃棄物学会研究発表会のお知らせ

2006 年 11 月 20 日（月）～ 11 月 22 日（水）

北九州国際会議場、西日本総合展示場

詳細については、廃棄物学会誌 Vol. 17 No. 4 に同封しました参加案内、または学会ホームページをご覧ください。

<http://www.jswme.gr.jp/> （廃棄物学会ホームページ）

<http://www.jswme.gr.jp/taikai2006/> （研究発表会専用ページ）

1. 参加申込方法

今回から、参加者全員に CD-ROM 版論文集を配布します。印刷版論文集を希望する方は、追加購入として事前申込みしてください。なお、印刷版論文集は事前申込数のみ作成しますので、当日購入はできません。CD-ROM 版論文集がご使用できない方は 9 月 29 日（金）までに学会事務局（TEL：03-3769-5099）へご相談ください。

（1）事前申込方法：

廃棄物学会誌 Vol. 17 No. 4 に同封しました参加申込方法をお読みの上、申込書を電子メール、FAX または郵送にて送信し、参加費を下記指定銀行口座にお振込下さい。電子メールで申込みされる方は、学会ホームページに掲載の参加申込書（XLS 形式）をご利用の上、sanka17th@jswme.gr.jp まで送信してください。入金を確認し、登録完了後、参加証及び講演論文集（CD-ROM 版）を郵送いたします。お届けは 11 月上旬となります。なお、印刷版論文集は当日引換となります。

（2）事前申込締切：9 月 29 日（金）・・・振込みは 10 月 10 日（火）までにお願いします。

（3）参加費（CD-ROM 版論文集を含む）：

正会員並びに公益・賛助会員所属 8,000 円

学生会員・登録団体市民会員 4,000 円

非会員 12,000 円

※印刷版論文集の追加購入 5,000 円

（4）申込先：〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5 階 廃棄物学会事務局

FAX：03-3769-1492 E-Mail：sanka17th@jswme.gr.jp

（5）振込先：

銀行名：みずほ銀行 芝支店（店番号：054）

口座名：廃棄物学会研究発表会（ハイキング・ツァー・ケンキョウハツ・ヨカイ）

口座番号：普通 2504706

【振込手数料はご負担願います】

（6）当日申込方法：

事前申込ができなかった方は、会場にて当日受付をご利用ください。参加費は事前申込みと同じです。**印刷版論文集の当日購入はできません。**現金払いのみで、後払いは一切承っておりません。なお、参加費は釣銭のないようご用意願います。

2. 発表方法（詳細については、廃棄物学会誌 Vol. 17 No. 4 に同封しました参加案内、または学会ホームページに掲載の発表ガイドラインを参照してください。）

◎ セッションプログラム（廃棄物学会誌 Vol. 17 No. 4 に同封しました参加案内、または学会ホームページ参照）に「ポスター-1」または「ポスター-2」と記載されている場合は、**ポスター発表**です。

ポスター-1：1 日目発表、ポスター-2：2 日目発表で、その他は口頭発表です。

◎ ポスター発表の場合は、発表ガイドラインを参照してポスターを作製し、当日持参してください。

◎ 口頭発表の場合は、パワーポイントファイルによるプロジェクターでの発表が基本となります。ppt ファイルの作成にあたっては発表ガイドラインをご覧ください。

◎ OHP は基本的に用意しません。OHP の利用を希望される場合は 11 月 6 日（月）までにご連絡ください。

3. 施設見学会について

◎ 見学会の申込みは**事前申込みを基本とし**、定員になり次第、締切りとさせていただきます。

◎ 今年の見学会は A コース、B コースの 2 種類です。

◎ 見学会への参加には、研究発表会への参加が必要です。研究発表会の事前申込みも併せて行ってください。

4. 懇親会について

◎ **事前申込みと当日申込みで参加費が異なりますので、ご注意ください。**詳細については、廃棄物学会誌 Vol. 17 No. 4 に同封しました参加案内、または学会ホームページをご覧ください。

訃報 ～平岡正勝先生ご逝去を悼む～

廃棄物学会第二代会長、学会顧問、京都大学名誉教授、立命館大学エコテクノロジー研究センター長平岡正勝先生には、平成 18 年 8 月 6 日ご逝去されました。享年 76 歳でした。

平岡先生は、昭和 28 年京都大学をご卒業後、同大学大学院を経て昭和 31 年 4 月京都大学に奉職され昭和 44 年同大学教授になられました。平成 3 年から大学院環境地球工学専攻で環境情報工学講座をご担当されました。平成 6 年同大学を退官、名誉教授となられております。その後、同年 4 月から立命館大学客員教授、平成 8 年 4 月から同大学エコテクノロジー研究センター長を努めておられました。この間、環境庁中央環境審議会廃棄物部会長、厚生省ごみ処理に係るダイオキシン削減対策検討会委員長、環境庁廃棄物・リサイクル対策における経済的手法の活用方法のあり方に係る検討会座長などを務められ、環境問題解決に向けた国の政策決定に中心的な役割を果たされました。廃棄物学会の設立にあたっては多大なご貢献をいただき、平成 4 年第二代会長に就かれ、豊富な知識と卓越した指導力により学会の運営にご尽力いただきました。生前賜った数々のご功績に深く感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。



【お知らせ】

廃棄物学会東北支部 秋田地区講演会(2006)

「秋田で考える循環型社会

～資源と環境配慮型の地域社会を目指して」

開催日時：平成 18 年 10 月 23 日(月)13:20～17:10

開催場所：秋田ビューホテル(秋田市)

参加費：無料(懇親会は会費 5,000 円)

申込締切：平成 18 年 10 月 13 日(金)

申込・問合先：秋田大学工学資源学部 柴山敦

TEL&FAX 018-889-3051

E-mail: sibayama@ipc.akita-u.ac.jp

北海道大学に寄附講座(不法投棄対策工学講座)開設

2006 年 10 月 1 日より北海道大学大学院工学研究科に開設される日本初の不法投棄対策工学講座の開設式・記念講演会および懇親会を下記のとおり実施致しますので、ご出席をよろしくお願い申し上げます。

開催日時：2006 年 10 月 6 日(金)14:30～

開催場所：札幌アспенホテル(札幌市)

記念講演者：廃棄物学会会長 武田信生 京都大学教授

問合先：北海道大学大学院工学研究科

循環計画システム研究室 TEL 011-706-7284

JSWME Newsletter No. 57 (July) 発行のお知らせ

英文ニューズレター第 57 号が発行されました。

※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会 HP から入手できます。

(主要目次)

新会長ご挨拶：武田信生 京都大学教授

法制度等紹介：容器リサイクル法の見直し

廃棄物分野の ODA：パラオ共和国におけるごみ処理改善事業

日韓交流事業：韓国廃棄物学会研究発表会への参加報告

The contents of No.57

- 1 Greetings from the New JSWME president, Prof. Nobuo Takeda
 - 2 Review of the Containers and Packaging Recycling Law
 - 3 Japan's ODA on Solid Waste Management: Project for the Improvement of SWM in the Republic of Palau
 - 4 Report on the Research Conference of the Korea Society of Waste Management (KSWM)
 - 5 Contents of Journal of the JSWME, Vol. 17, No.3 (May 2006)
- Cartoon by High Moon: "Modern food chain"

次号(学会ニュース No. 95)は 11 月 10 日発行予定です。

会 員 状 況	
	H18. 7. 31 現在 () 内は、H18. 4. 1 以降の増減
正 会 員	3,328 (15)
学生会員	350 (36)
外国人会員 (DM)	26 (1)
登録団体市民会員	4 (0)
公益会員	110 (1)
賛助会員	164 (-7)
計	3,982 (46)

注) 外国人会員 (DM) は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 94 平成 18 年 9 月 1 日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

http://www.jswme.gr.jp



印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

☆☆事務局だより☆☆

夏休みを利用して、世界自然遺産である北海道知床半島の海岸線に漂着したごみの回収ボランティアに、中学 3 年の娘の同伴者として参加してきました。この催しは、半島先端部の道路がない海岸線の清掃を行うために、1999 年から地元の町主催で開始され、昨年度からは全国からボランティアを募って、年に 10 回実施されているそうです。漁船に約 30 分乗船して、通常は立ち入りが制限されている知床岬で下船し、徒歩で海岸線を移動して漂着ごみの回収を行いました。漂着ごみの多くは流木でしたが、漁網やロープ類などの漁業用資材も多く打ち上げられていました。また、それらの中には必ずペットボトル、缶、びん、発泡スチロール片やプラスチック容器類がありました。自然物である流木以外の漂着ごみを対象に回収しましたが、回収物を船まで約 20 分歩いて運ばなければならず、漂着ごみの大部分は放置せざるを得ませんでした。環境教育も兼ねたごみの回収ボランティアなので、約 10 名の参加者が回収した漂着ごみ量は約 150kg と少ない量でしたが、実際の海岸線での漂着ごみの多さ、その回収の大変さを実感できた貴重な体験でした。(谷川昇 記)